



2027 年度 研修医手帳

氏 名 :

新百合ヶ丘総合病院

臨床研修管理委員会

はじめに

卒後臨床研修記録の使い方

◆この卒後臨床研修記録には、以下のものが綴じ込まれています。

卒後臨床研修の手引き

- (1) はじめに
- (2) 初期臨床研修プログラム
(病院の概要、研修の目的、特徴、仕組み等が示されています。)
- (3) 厚生労働省の「医師臨床研修の目標」
- (4) 新百合ヶ丘総合病院の各科初期臨床研修プログラム
- (5) 杏林大学医学部付属病院の精神神経科初期臨床研修プログラム

◆本卒後臨床研修記録は、2 年間の記録を記すものですので大切に使用してください。

研修の進め方

1. 厚生労働省の示す「医師臨床研修の目標」を達成するために必要な研修内容を盛り込んだ 2 年間の臨床研修プログラムを作成し、それに基づいて研修を行う。
2. ロータート各科において（協力型病院及び協力施設での研修も含む）、初期臨床研修プログラムに基づいて研修を行い、各科終了毎に到達目標について自己評価するとともに指導責任者の評価を受ける。
3. 2 年間の研修終了時に、各科到達目標をまとめて「医師臨床研修の目標」を完成させる。
4. ロータート各科において、各科終了毎に研修医が指導医・看護部評価表に記入し提出する。
5. 自由選択科については、選択科目が決まり次第速やかに臨床研修管理委員会事務局に報告する。
6. 研修中は卒後臨床研修記録に、学会・研究会等の行事、研修実績を毎日記録する。

初期臨床研修プログラム

1. プログラムの名称

新百合ヶ丘総合病院初期臨床研修プログラム

プログラム責任者 井廻 道夫

プログラム副責任者 廣石 和正

2. プログラムに参加する施設とその規模の概要

【基幹型臨床研修病院】

新百合ヶ丘総合病院

【協力型臨床研修病院】

杏林大学医学部付属病院 : 研修実施責任者 渡邊 衡一郎 (精神神経科学)

【研修協力施設】

渡辺クリニック : 研修実施責任者 渡邊 寛之 (内科、人工透析)

あさお診療所 : 研修実施責任者 清田 実穂 (内科、小児科)

たま日吉台病院 : 研修実施責任者 渡邊 みどり (総合内科)

世田谷リハビリテーション病院 : 研修実施責任者 佐藤 由紀 (リハビリテーション科)

【基幹型臨床研修病院】

新百合ヶ丘総合病院の概要

病床数 563 床

診療科名

内科、外科、消化器内科、内視鏡内科、消化器外科、循環器内科、心臓血管外科、呼吸器内科
呼吸器外科、糖尿病内科、腎臓内科、透析内科、脳神経内科、脳神経外科、整形外科、
スポーツ整形外科(院内標榜)、産婦人科、小児科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、
形成外科、美容外科、麻酔科、眼科、放射線診断科、放射線治療科、救急科
歯科口腔外科、心療内科、リハビリテーション科、精神科、乳腺外科、ペインクリニック内科、
血液内科、血管外科、病理診断科、内分泌・代謝内科、内分泌外科、肝臓内科
総合診療科(院内標榜)、脊椎脊髄末梢神経外科(院内標榜)、新生児内科、緩和ケア内科、
腫瘍内科、集中治療科(院内標榜)、膠原病リウマチ内科(院内標榜)、リウマチ科

専門医（認定医）教育病院等学会の指定状況（主だったもの）

地域がん診療連携拠点病院

臨床研修指定病院

三次救急指定病院

日本医療機能評価機構認定（機能種別版評価項目 3rdG : Ver.2.0）

日本内科学会教育関連病院

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本呼吸器学会関連施設

日本麻酔科学会麻酔科認定病院

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

日本病院総合診療医学会認定施設

日本整形外科学会研修施設

血管内レーザー焼灼術実施・管理委員会実施施設

日本脈管学会認定研修関連施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本脳卒中学会研修教育病院

日本消化器病学会認定施設

日本眼科学会研修施設

日本静脈経腸栄養学会 NST（栄養サポートチーム）稼働施設

日本循環器病学会循環器専門医研修施設

日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設

日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関

日本血液学会血液研修施設

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設

呼吸器外科専門医合同委員会関連施設

日本形成外科学会認定教育関連施設

日本産婦人科学会専攻医指導施設

日本産婦人科内視鏡学会認定研修施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本神経学会教育施設

日本脳ドック学会脳ドック認定施設

日本脊髄外科学会認定訓練施設

日本救急医学会救急科専門医指定施設

日本消化管学会指導施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

日本脳神経血管内治療学会研修施設

日本肝臓学会認定施設

日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設

日本小児科学会専門医研修関連施設

日本腎臓学会認定研修施設

病院の沿革、特徴

新百合ヶ丘総合病院は、神奈川県川崎市北部の不足病床を補い、産婦人科・小児科を含む地域医療の充実と救急医療体制づくりに寄与することなどを目的とした川崎市の公募において、南東北グループのひとつ、医療法人社団三成会が選ばれ、川崎市医療審議会、川崎市の承認を得て2012年8月377床急性期病院として開院致しました。

『すべては患者さんのために』という基本理念のもと、患者さん第一主義の視点から、チーム医療を導入し、診療科の垣根を越えたカンファレンスを重視、患者さん一人ひとりにとって最適な治療方針を決定するなど、患者さんのQOL（生活の質）まで配慮した非侵襲な、体に優しい医療に力を入れています。

高度医療・急性期病院として地域の『最良の安心』となるべく、職員一丸となって地域の方々のために貢献して参ります。

【協力型臨床研修病院】

杏林大学医学部付属病院

病床数 1,159 床

診療科名

（内科系）

呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、循環器内科、高齢診療科、神経内科、感染症科、腎臓内科
糖尿病・内分泌・代謝内科、リウマチ膠原病内科、消化器内科

（外科系）

消化器・一般外科、呼吸器・甲状腺外科、乳腺外科、形成外科・美容外科、脳神経外科
心臓血管外科、整形外科、顎口腔外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸科、産婦人科
救急科、小児外科

（内科系・外科系以外の診療科）

救急総合診療科、リハビリテーション科、精神神経科、皮膚科、麻酔科、放射線科、小児科
看護（相談）外来、脳卒中科

病院の沿革、特徴

杏林大学医学部付属病院は多摩地域唯一の大学医学部付属病院本院であり、特定機能病院として、チームワークによる質の高い医療の実践、医療安全に対する最善の努力、地域医療の推進、良き医療従事者の育成、先進的な医療の実践と開発、の5つの基本方針を掲げ、地域に安全で良質な医療の提供を目指して職員一同一丸となって取り組んでいる。

高度急性期病院として24時間体制で一・二次救急に対応し、高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、脳卒中センターなど緊急を要する各種疾患にもいつでも対応できる体制を整備しており、地域にお住まいの方にとって安心して頼れる中心的な病院となることを目指している。

【研修協力施設】

1) 渡辺クリニック

病床数 透析ベッド 25 床

診療科名

内科、泌尿器科、人工透析、脳神経外科、通所リハビリテーション、在宅診療、訪問リハビリテーション

クリニックの沿革、特徴

一般内科及び生活習慣病などの慢性疾患が中心。脳神経外科は、頭部打撲・急な頭痛などにも随時対応。リハビリテーションは通所・訪問両方行っている。24 時間医師・看護師が勤務、夜間・救急対応可。

10 キロ圏内の患者へは、自宅とクリニック間を無料送迎している。

2) あさお診療所

診療科名

内科、小児科

クリニックの沿革、特徴

1996 年開設。「家庭医療科」をうたっており、赤ちゃんからお年寄りまで幅広く診療している。禁煙外来予防接種や健診・がん検診、地域包括ケアとのかかわり、医療者・医療系学生の教育にも力を注いでいる。訪問診療も行っており、脳梗塞後遺症・認知症・がんの緩和ケア・難病などにも対応している。

日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修施設

日本プライマリ・ケア連合学会認定薬剤師実習施設

3) たま日吉台病院

病床数 199 床（一般病床 117 床、療養病床 82 床）

診療科名

内科、総合内科、外科、整形外科、皮膚科、脳神経外科、循環器内科、肛門外科、消化器内科
消化器外科、リハビリテーション科

病院の沿革、特徴

1988 年 8 月に開設した地域に根差した歴史ある病院。超高齢化社会に向けて在宅での介護・医療・入院治療・退院後の支援までを継続的に診て（看て）いくことを目指し、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション・訪問服薬指導・訪問栄養指導等を積極的に行っている。

新百合ヶ丘総合病院 臨床研修管理委員会

専門外来も多数設けており、禁煙・糖尿病・睡眠時無呼吸症候群・もの忘れ外来など。リハビリテーション科では、ことばが遅れている・発音がおかしいなどの小児向けに、小児言語療法を行っている。

4) 世田谷リハビリテーション病院

病床数 92 床

診療科名

内科、リハビリテーション科

病院の沿革

2019年4月1日に開設。都立梅ヶ丘病院跡地(南東北グループがPFI事業で選定)に、地域医療・福祉連携を目的として開設。脳卒中や骨折後の集中リハビリテーションを提供し、介護老人保健施設や障害児・障害者入所施設、通所・訪問サービス事業所など同一建物内で医療・介護・福祉の連携を図る「東京リハビリテーションセンター世田谷」内に併設されています。

3. 協力型臨床研修病院及び研修協力施設の指導医

【協力型臨床研修病院】

杏林大学医学部附属病院：	精神神経科	渡邊 衡一郎 坪井 貴嗣 今村 弥生 片桐 建志 野崎 和博 神田 優太 小谷 万葉 渡邊 菜保子
--------------	-------	--

【研修協力施設】

医療法人柿生会 渡辺クリニック：	内科	渡邊 寛之
川崎医療生活協同組合 あさお診療所：	内科	清田 実穂
医療法人社団晃進会 たま日吉台病院：	内科	渡邊 みどり
一般財団法人脳神経疾患研究所附属 世田谷リハビリテーション病院	リハビリテーション科	佐藤 由紀

4. 初期臨床研修の目的

新百合ヶ丘総合病院の初期臨床研修は、医師に求められる責任感・使命感を養い、診療に必要な幅の広い臨床能力を習得するため、医学部・医科大学卒業後の最初の研修として、医療に関わる基本的な知識、診療技術・態度を身につけることを目的とする。地域の患者さんが最適で最高の医療を得るためには、高い専門性の医療とともに、患者中心の人間性・社会性が豊かな医療が必要である。そのために、当病院では2年間の計画されたプログラムの中で、地域の中核病院として、地域に密着した良質な医療を学ぶことが研修医に期待される。

これに達するための行動目標は以下の通りである。

- ① 全科の頻度の高い一般的疾患に対処（診断・治療）することができること
- ② 救急患者の応急処置ができ、専門医へ紹介できること
- ③ 患者の状態に応じて、上級医、指導医または他科に紹介できること

「上記①、②、③のプライマリーケアおよび救急疾患の初期治療を行う技能の獲得に主眼がおかれている」

- ④ 診療録を的確に記録し、伝達、申し送りができること
- ⑤ チーム医療の中で、協力して診療ができること
- ⑥ 患者中心の医療を実践する能力と患者・家族との信頼関係が確立できること
- ⑦ 地域の健康、福祉ニーズを理解し、老人、障害者などの介護ができること
- ⑧ 患者の社会復帰を目指した基本的医療計画を立案できること

5. 研修の特色

- 自由選択期間が長く、自分に合ったローテートを立案することができる。
- 必修科目の地域医療は当院の二次保健医療県内から研修施設を選択できる。
- 24時間体制の救急センターを運営しており、一般的疾患から専門性を必要とする救急疾患まで症例が豊富である。
- 放射線診断機器（PET-CT 2台、MRI 1.5T 2台・3.0T 2台、64列CT 3台、血管撮影 3台等）が充実し、臨床各科と放射線診断科・病理診断科による合同カンファレンスが充実している。
- 放射線治療装置（リニアック、IMRT等）が整備され、放射線治療専門医が1名おり、がん治療等に関する合同カンファレンスが充実している。
- ロボット手術「ダ・ヴィンチ」導入等高度先端医療に前向きに取り組んでいる。
- 消化器内視鏡検査が年間10,000例近くあり、内視鏡検査に係る研修も充実している。
- 令和4年4月より地域がん診療連携拠点病院に指定され、がん診療に積極的に取り組んでいる。
- 各診療科が研修医の受け入れ、教育に熱心である。
- 研修医教育担当のスタッフがいる。
- 2年間の初期臨床研修終了後の専門科への受け入れができる。

6. 募集人員

一年次研修医 7名

7. 研修計画

＜初期臨床研修プログラムの策定＞

研修方式は2年間の総合研修方式である。

1年次から2年次4月までは、内科24週、救急科8週（含 麻酔科4週）、外科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療 各4週を必修として各々をローテーションする。

2年次5月からは、自由選択科で研修する

1年次5月より当直約4回/月、2年次より一般外来1回/週に入り、並行研修を行う。

【基本プログラム】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年次	内科 (24 週)						救急科 (8 週)		外科 (4 週)	小児科 (4 週)	産婦 人科 (4 週)	精神科 (4 週)
		副宿日直研修 (17:30～8:30) 指導医 1 名・研修医 1 名					副宿日直研修 (17:30～8:30) 院内オンコール体制 (8:30～17:30) 指導医 1 名・研修医 1 名					
	当直約 4 回/月 ※救急科研修としてカウント											
2 年次	地域医療 (4 週)	自由選択科 (52 週)										
	一般外来 (週 1 回)											
	副宿日直研修 (17:30～8:30) 院内オンコール体制 (8:30～17:30) 指導医 1 名・研修医 1 名											
	当直約 4 回/月 ※救急科研修としてカウント											

※1 外科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療は各4週研修する。

※2 地域医療については、研修協力施設から選んで4週研修する。

※3 臨床研修到達目標の未到達がある場合は、自由選択期間を使って補完する。

※4 【自由選択科目】

消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、腎臓内科、血液内科、
糖尿病・内分泌代謝内科、緩和ケア内科、内科、外科、消化器外科、脳神経外科、
呼吸器外科、形成外科、整形外科、血管外科、心臓血管外科、
放射線診断科、放射線治療科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、病理診断科、泌尿器科、
総合診療科、産婦人科、小児科、精神神経科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科
集中治療科、膠原病リウマチ内科

◆ 精神神経科については、杏林大学医学部附属病院精神神経科にて研修する。

◆ 地域医療については、下記研修協力施設から選んで研修する。

【研修協力施設】

世田谷リハビリテーション病院

渡辺クリニック

あさお診療所

たま日吉台病院

※5 2年間の研修プログラムについては、マッチング終了後に臨床研修管理委員会と研修医が相談して決める。

8. 指導と管理体制

臨床研修管理委員会名簿、指導医及び上級医名簿は別紙参照

9. 研修プログラムの管理運営

研修プログラムの管理運営は、研修指導責任者が集まって開催される「臨床研修管理委員会」を中心に行われる。臨床研修管理委員会において研修の評価を行い、それに基づいてその年の研修プログラムを協議し、計画を立て、必要な修正を行う。

10. 教育に関する行事

(1) オリエンテーション

研修第 1 週～第 2 週をオリエンテーション週間として設定

臨床倫理

院内諸規程

施設設備の概要と使用方法

図書・文献検索

病歴管理室

保険診療を行う上での留意事項

研修医が単独で行ってよい医療行為に関する基準

診療記録、診断書、処方箋、紹介状等の書き方

インフォームド・コンセント、医療法規 等

リスクマネジメントについて

看護部から

臨床検査科、病理診断科

地域医療連携について

(2) 卒後教育講義：各診療科の指導医による

各種救急疾患に対する判断・治療に対する講義

各診療科の初期診療や各種疾患に関する講義

(3) 部科長回診

(4) 抄読会・症例検討会（カンファレンス）

毎週月曜日 午前 8 時 30 分～9 時 00 分 開催

(5) CPC

3～4 ヶ月に 1 回 開催

(6) 研修医による症例検討報告会

6 ヶ月に 1 回 開催

11. 指導体制

(1) 診療科毎に臨床研修責任者がおり、各診療科での研修は研修責任者、または責任者が指定する指導医・上級医が指導を行う。

(2) 原則として 1 人の研修医を 1 人の指導医が担当する。

12. 評価方法

- (1) 研修医の知識・技能・態度の臨床研修目標に対する達成度を判断するため、プログラムの評価項目について評価を行う。
- (2) 評価は、診療技術面のみならず、チーム医療の達成度や患者とのコミュニケーション能力を含めて、多面的に実施する。
- (3) 指導医は担当する診療科で指導期間中、日常的な観察を通じて研修目標の到達状況を把握し、評価する。
- (4) 各到達目標においては、A 評価「到達目標に達した」、最低でも B 評価「到達目標に近い」が得られるよう努力が必要である。
- (5) 指導医は、各評価者から提出された評価表をとりまとめた上で、研修医に説明し、その結果を基に研修到達目標の達成に近づくよう、適切な助言や指導を行う。

13. 2 年間のプログラム修了後の認定

- (1) 研修プログラム委員会は、臨床研修期間修了に際し、各診療科での評価表を基に、研修到達目標の達成度を総合評価します。
- (2) 総合評価に基づき、研修医が臨床研修を修了したと認めたときには臨床研修修了証を交付します。
- (3) 総合評価の結果、研修医が臨床研修を修了していないと判断された場合には、その旨を研修医に通知します。
- (4) 研修中に研修医が医師としての適性を欠くと判断された場合や、臨床研修を継続することが困難な場合には、当該研修医に対する臨床研修を中断・中止することもあります。

14. 2 年間のプログラム修了後のコース

当院において引き続き各診療科研修を継続するか、大学または他施設で研修・研究に従事するかの進路については研修医の選択に任せる。

15. 研修医の処遇

- (1) 身 分： 正職員
- (2) 給 与： 当院給与規定による
1 年目 給与（税込み） 月額 360,000 円 年額 4,320,000 円
2 年目 給与（税込み） 月額 410,000 円 年額 4,920,000 円
時 間 外 手 当： 有
休 日 手 当： 有
- (3) 勤 務 時 間： 8:30～17:30（休憩時間：1 時間）
 - ・ 時間外勤務は原則的になし。
- (4) 休 暇： 有給休暇（1 年次：14 日、2 年次：15 日）
年末年始休暇 あり（12 月 31 日～1 月 3 日）
- (5) 当 直： 回数（約 4 回／月）
 - ・ 研修 1 年目の当初 6 ヶ月は当該科指導医について見習い当直をする。
 - その後 1 年目後半より 2 年目は副当直として月約 4 回程度割り当てられる。
 - 当直料は別途支給する。
- (6) 研 修 医 の 宿 舎： 借り上げ住宅（単身用）

新百合ヶ丘総合病院 臨床研修管理委員会

- (7) 研 修 医 室： 有
- (8) 社 会 保 険： 有
 - ・ 公的医療保険： 協会けんぽ
 - ・ 公的年金保険： 厚生年金
 - ・ 労働者災害補償保険法の適用： 有
 - ・ 国家・地方公務員災害補償法の適用： 無
 - ・ 雇 用 保 険： 有
- (9) 健 康 管 理： 健康診断年 2 回
- (10) 医師賠償責任保険： 病院において加入、個人加入は任意
- (11) 外部の研修活動
 - ・ 学会、研修会等への参加： 可
 - ・ 学会、研修会等への参加費用支給の有無： 有
 - ただし、医師の学会等の出張基準（内規）による
- (12) 妊娠・出産・育児に関する施設及び取組
 - 院 内 保 育 所： 有 ※夜間保育有り
 - 病 児 保 育： 無
 - 体調不良時に休憩・授乳等に使用できる場所： 有
 - 研 修 医 の ライフイベントの相 談 窓 口： 有
 - 各 種 ハラスメントの相 談 窓 口： 有

16. 研修期間中の注意事項

研修期間中のアルバイト診療禁止について

次のとおり、初期臨床研修期間中にはアルバイト診療を行うことはできない。

【医師法第 16 条の 2 第 1 項】

診療に従事しようとする医師は、二年以上、医学を履修する課程を置く大学に附属する病院または厚生労働省大臣の指定する病院医において、臨床研修を受けなければならない。

【医師法第 16 条の 3】

臨床研修を受けている医師は、臨床研修に専念し、その資質の向上を図るように努めなければならない。

17. 研修医の募集及び採用の方法

- (1) 募 集 方 法： 公募
 - (2) 応募必要書類
 - ・ 卒後臨床研修プログラム採用申請書（指定用紙）
 - ・ 基本プログラム希望調査票（指定用紙）
 - ・ 履歴書（指定用紙）
 - ・ 健康診断書
 - ・ 成績証明書（CBT 成績表、OSCE 成績表含む）
 - (3) 選 考 方 法： 書面審査（小論文）、適性検査、健康診断及び面接
- 募集及び選考の時期： 募集時期 希望する面接日の 1 週間前まで必着
- 面 接 試 験 日： 8 月中旬・9 月初旬予定
- マッチング利用の有無： 有

研修管理委員会 委員長より

2004 年から臨床研修が必修化されました。皆さんは医学部卒業後、責任ある医師という立場で患者さんを診療していくことになります。初期臨床研修期間である最初の 2 年間は、医師という職業を選んだ皆さんにとって、自分の理想の医師像に向かって邁進する大切な時間です。この短い期間で、研修に専念できる環境のもと、医師としての人格を涵養し、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を修得していかなければなりません。そのためには充実したスタッフのきめ細かい指導のもと、患者さんとのコミュニケーション能力や、幅広い医学的な知識や診療・診断技術、その場面に応じた対応力を身につけなければなりません。

新百合ヶ丘総合病院は 2012 年 8 月に開院した病院です。これまでは臨床研修協力型病院として研修医を受け入れておりましたが、この度、2017 年度に初めて初期臨床研修医を基幹型病院として募集することになりました。指導医は、大学病院で長年指導的立場にいた者や、地域の最前線で日夜診療に携わってきた者ばかりで、皆さんと仕事ができることを心待ちにしております。

この初期臨床研修の 2 年間で多くの症例を経験し研鑽を積み、高い倫理観を持ち、最新の標準的医療を実践し、安全な医療を心がけ、プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開できるような立派な医師になっていただくよう、指導に励んで参りたいと思います。

研修管理委員会 委員長
井廻 道夫